



大智寺を開いた初代住職様の法要

かいさんき
開山忌

10月30日



稲田は黄金に波打ち、収穫を待つばかり
空は高く澄み切って、嬉しい運動会のシーズンとなりました。
皆様、お変わりありませんか。

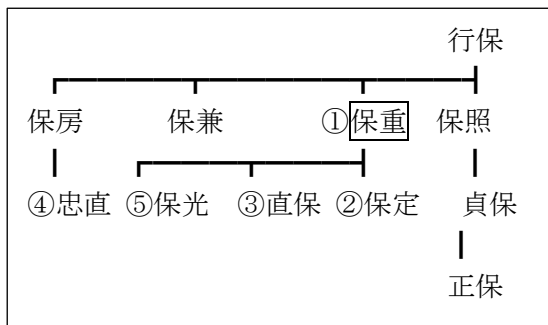
さて、毎年10月30日には
大智寺を開かれた初代住職様の法要(開山忌)を執り行います。
この開山忌には、近隣の和尚様20名程にお集まりいただき、
大智寺総代様及び世話役の方々とともに、
開山様に手を合わせます。



お寺にはそれぞれ建てられた因縁がありますが、
この大智寺は今から500年以上前、西暦1500年に
鷲見美作守保重公(すみみまさかのかみやすげ)の菩提を
弔うために創建されました。

今回は、鷲見家のことを少しご紹介します。
鷲見家は、もともと郡上市高鷲町大鷲にある鷲見城の城主でしたが、
南北朝時代、鷲見氏は美濃守護土岐氏と共に足利方として
南朝と戦いました。

鷲見家は、山県郡北野その他5郡2村落にわたる領地を持ち、
保重の時代には、その領地は尾張国の一部をも含む18万石まで拡大しました。
ところが、永正7年(1510年)に美濃守護代斎藤利良と不和になって攻められ、
大智寺にて自刃しました(享年53)。



その後は、保重の子保定が北野城主になったものの、再度斎藤利良と戦って討死し、
翌永正15年(1518年)8月に土岐政房が斎藤利良を打ち負かしたため、
保重の次男直保が北野城主となりました。北野城主の直保は土岐政房に仕えたものの、
天文16年(1547年)に斎藤道三と戦い奮戦の末討死しました。

代わって直保の従兄弟・忠直が鷲見家を嗣ぎ、
北野城主となり道三に仕えました。
道三と嫡男義龍が争った際は道三を一時北野城に迎え入れるなどしましたが、
弘治2年(1556年)の長良川の戦いで
道三は討死し、忠直もこのときに戦死しました。

直保の弟保光は、この戦いに義龍側で参加し、
義龍の死後龍興に仕えていたものの、
永禄10年(1567年)に織田信長が
稲葉山城を攻めて龍興が敗走すると
鷲見一族は郡上へと逃げのびていきました。



戦国時代から織田信長が出てくるまでの怒涛の時代
土岐氏、斎藤氏に翻弄された鷲見家の様子をご紹介しました。
大智寺の創建の時代背景に思いを馳せてみると
開山様のご苦労もいかに程だったか思われます。

大智寺だより

平成29年神無月
Vol.90

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話:058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去の紙面をご覧いただけ
ます。ご活用ください。

9月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます



岐阜新聞（9月23日付）にて
彼岸花をご紹介いただきました



暑さ寒さも彼岸までと言いますが、
心地よい秋風が吹き始めたなと思う頃、大智寺の得月池では彼岸花が咲いてくれます。
今年も8月の終わりから住職が数日間かけて池の草刈りをして、
彼岸花の開花を心待ちにしておりました。

この彼岸花は、今は亡き永瀬友典様が毎日少しずつ植えて増えられたものです。
春先の冷たい風が吹く中、池にしゃがんで黙々と植えておられたお姿が
今でも脳裏に浮かびます。

ご戒名を華岸道友信士とおっしゃいますが、その名の通り
今も彼岸（仏様のいらっしゃる悟りの世界）できれいな華に囲まれながら
こちらを見守って下さっていることと思います。
今シーズンも岐阜新聞様にご紹介いただき、大勢の方々にご縁を結ぶことができました。
ありがとうございました。



お彼岸のお参り
ありがとうございました



気持ち良い秋晴れの中、9月21日に里1号の皆様が
朝早くから弘法堂のお掃除をしてくださり、
きれいなお花をお供えしてお彼岸のお参りをしてくださいました。
突風が吹いた後で、弘法堂前の庭に枯れ枝がたくさん落ちていたのも
きれいに手で拾って下さり、助かりました。
ありがとうございました。



また、観音堂でも9月26日にお彼岸のお参りがありました。
今年は他の地域行事が重なり、日程調整も大変な中
皆様にご協力をいただき、無事にお参りできました。
ありがとうございました。



美濃西国三十三観音霊場
来年の総開帳 中止のお知らせ



美濃西国三十三観音霊場会では、
4年に1度の総開帳を実施してきており、
当初、今まで通り来年の4月に総開帳を予定しておりましたが
9月30日に開かれた総会にて、急遽中止が確定しました。
皆様には大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。
尚、今後の総開帳開催予定については会議にて決まり次第、お知らせ致します。
どうぞご理解いただけますよう、お願い致します。

小学校のお友達が
歴史を学びにきてくれました

よく晴れた9月28日、三輪北小学校6年生の皆様が、授業の一環で大智寺の歴史を学びにきてくれました。真剣なまなざしで話を聞いて下さり、後日素敵な感想文をいただきました。また、いつでもお寺に遊びにきてくださいね。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31 ページより

38

「^{おも} ^や ^{そのとき} ^{くげん} ^{ほど} ^{いかに} 思い遣るべし其時の 苦患の程は幾ばかり」

「思い遣るべし」の「遣る」という字は、
おもいやりの真心を尽くす時に使う漢字です。

わかりやすい例をあげると、同じ「つかう」という読みで比較すると
「気を使う」は上司の機嫌をとったりして、気を使った後は疲れるものですが、
「気遣う」は、自分より相手に心を寄せる優しさから起つもので、後で疲れるものではありません。
こう考えると、苦患の程をお思い遣るにも自分の心次第となってきます。

さて、場面はお釈迦様が生きておられた時代のインド。

光厳童子という修行者が、騒がしい城下を出て、閑静な修行場所を探していた時、
お釈迦様の弟子 維摩（ゆいま）居士に出会い、「どちらから来られましたか？」と訊ねると
「道場から来た」という答えが帰ってきたので、「その道場は何処にあるんですか」と問い直すと、
維摩居士は「直心是道場（じきしんこれどうじょう）」とひとこと。

「直心」とは素直な心、我見、我執のない真っ直ぐできれいな心のことです。

素直な心で一日一日修行をするならば、閑静な修行場所などなくとも
そこが病院のベットの上であれ、事務所や街中のような喧騒の場であれ、お風呂に入っていようと
心掛け次第で、今この場が“道場”即ち修行の場なのです。

今月のひまわり

暑からず寒からず、穏やかな日が続きます。
先月末にはRSウィルスが元で娘が肺炎を
患い、一週間以上入院しました。24時間完全
付き添いが必要となったものの、妊娠9か月の
お腹では十分なこともできず、夕方から翌
朝まで毎日住職が病院に寝泊まりしました。
皆様には予定の変更をお願いしたり、住職と
連絡が取りづらかったり、ご迷惑、ご不便を
おかけしました。申し訳ありませんでした。

さて、しばらく話もできずグッタリしてい
た娘も後半には元気になり、帰りたい一心。
季節柄「どんぐりころころ」を歌ってみると
2番の歌詞でますます帰りたいくなる始末(笑)
「どんぐりころころ よろこんで
しばらく一緒に 遊んだが
やっぱりお山が 恋しいと
泣いてはドショウを 困らせだ」
けれど、幻の3番があるとは驚きでした。
「どんぐりころころ 泣いてたら
仲良しリスが とんできて
落ち葉にくるんで おんぶして
急いでお山に 連れてった」

恋しい家、温かい家庭を築くため、母とし
てできる限り尽くしたいと思います。
「世界平和のために何をしたらいいかですっ
て？家に帰って家族を大切にしてください」

（マザーテレサ）
予定日は11月11日ですが、来月と再来月
大智寺だよりお休みします。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味

素朴な大豆の香りを楽しむ 湯葉の春巻き

- ① 乾燥平湯葉を必要な枚数だけ水に戻す。
- ② 人参の千切り、しいたけなどキノコ類、もやし、刻み生姜を炒めて中華スープの素と水を材料がひたひたになるくらい入れて煮る。
- ③ 片栗粉を適量水に溶かし入れて、少し硬めのとろみをつける。
- ④ よく冷めたら、平湯葉に巻いて小麦粉を水で溶いたものを端に塗りしっかりと巻き終わりをとめる。油で揚げて出来上がり。



もっとボリュームが欲しい場合は、しっかり水切りした豆腐をミンチにしてお肉代わりにします。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

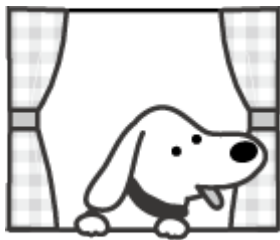
初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

10月22日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

9月写経会 備忘録

透き通った秋晴れのもと、彼岸花がきれいに池
周辺を染めた日曜日。朝から住職不在で申し訳
ありませんでした。お彼岸は心の修行期間。心
静かにお写経に取り組めたことと思います。
お写経後には、羽島市笠松にある伊住屋(いず
みや)さんの栗蒸し羊羹で一服しました。
机や写経道具、抹茶茶碗など庫裡までお運びい
ただき、いつもありがとうございます。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人



第九話 「太鼓腹に注意？」
パセーナディ王

お釈迦様の時代、インドにはコーサラ国とマカダ国という二大強国がありました。
お釈迦様はこのコーサラ国の祇園精舎に度々滞在されましたが、
お釈迦様と年齢が近かったコーサラ国の国王 パセーナディ王も、
お釈迦様を慕って足しげく祇園精舎に通いました。

ところが、このパセーナディ王は大変な肥満体。
御殿にはおいしい食べ物がたくさんあり、いくら大食いでも国王に注意する人はいません。
今日も相変わらず太鼓腹を突き出して、汗を拭き拭き祇園精舎へやってきました。
「いやあ、太っているから辛いですわ。ちょっと歩いてもすぐ息が上がる。」
静坐中のお釈迦様の横にどかっと胡坐をかきながら、フーフー言っています。
「せいぜい言って・・・ほれ、鼻の頭から汗が落ちますぞ」お釈迦様も苦笑気味。
あわてて汗を拭く国王を横目に
「常に心を落ち着けて、食べ物を得ても量を知っていれば、諸々の苦しみは減っていく。」
とお釈迦様はつぶやかれました。
はっと気付かれたパセーナディ王は、その後食事のたびにこの言葉を暗唱したそうです。
「足るを知る」という教え、食欲の秋に心に刻みたいものです(笑)

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上 ご来山ください。